

平成 28 年度 東京都内湾水生生物調査 11 月成魚調査速報

●実施状況

平成 28 年 11 月 17 日に成魚調査を実施した。調査当日は大潮で、満潮が 6 時 59 分、干潮が 12 時 35 分であった(東京都港湾局のデータ)。調査当日の透明度は 2.7~8.2m であり、赤潮状態は確認されなかった。また、全地点で夏季の貧酸素状態は解消され、生物の回復傾向が確認された。浦安沖に設置された、東京湾環境情報センターの自動モニターによると、St.22 近辺の貧酸素の回復は 11 月に入ってからと、他の地点より遅かったようである。

	St.25		St.35		St.22		St.10	
作業時刻	11:18-11:52		10:12-10:55		12:15-12:53		12:58-13:35	
水深(m)	14.0		27.1		14.3		7.3	
天候	快晴		快晴		晴		晴	
気温(°C)	14.2		17.0		14.8		15.2	
風向/ 風速(m/sec)	静穏(-/0)		NE/2.1		静穏(-/0)		SSE/1.2	
波浪(m)	0.1		0.5		0.2		0.3	
透明度(m)	2.7		8.2		4.3		4.8	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	16.5	18.0	16.9	18.4	17.7	18.2	17.5	17.2
塩分(-)	28.5	32.4	31.8	33.2	31.2	32.6	31.7	32.0
DO(mg/L)	7.4	6.3	7.6	6.0	7.4	6.0	7.0	6.6
DO飽和度(%)	89.9	80.4	94.8	78.4	94.5	76.8	88.8	83.8
pH(-)	7.9	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考								

観測層：上層(0m)・下層(海底面上 1m)

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

主な出現種等	St.25	St.35	St.22	St.10
魚類	オキヒイラギ(r)	テンジクダイ(+) アカエイ(r) シログチ(r)	採取されず	アカエイ(r) マアジ(r) テンジクダイ(r)
魚類以外 (目立った種)	スナヒトデ(+) ホンビノスガイ(r) サルエビ(r)	オウギゴカイ(c) スナヒトデ(+) シャコ(r)	ホンビノスガイ(r) ミドリイガイ(r) スナヒトデ(r)	ホンビノスガイ(+) ミドリイガイ(+) アカガイ(r)
備考	チヨノハナガイの死殻 が多く入網した。	上記の他、ツバクロ エイ、コウイカ属、イツ カクモガニ等が採 取された。タイラギの 死殻が多く入網した。	トリガイの死殻が多く 入網した。	上記の他、ボラ、サル ボウガイ、シマメノ ウフネガイ等が採取 された。ホンビノスガ イの死殻が多く入網 した。

注)表中の( )内の記号はだまかな個体数を表す。

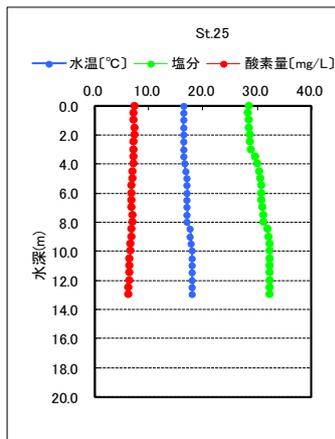
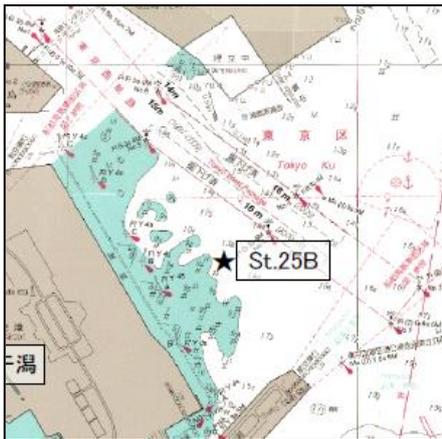
G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.25

調査地点位置

水質状況

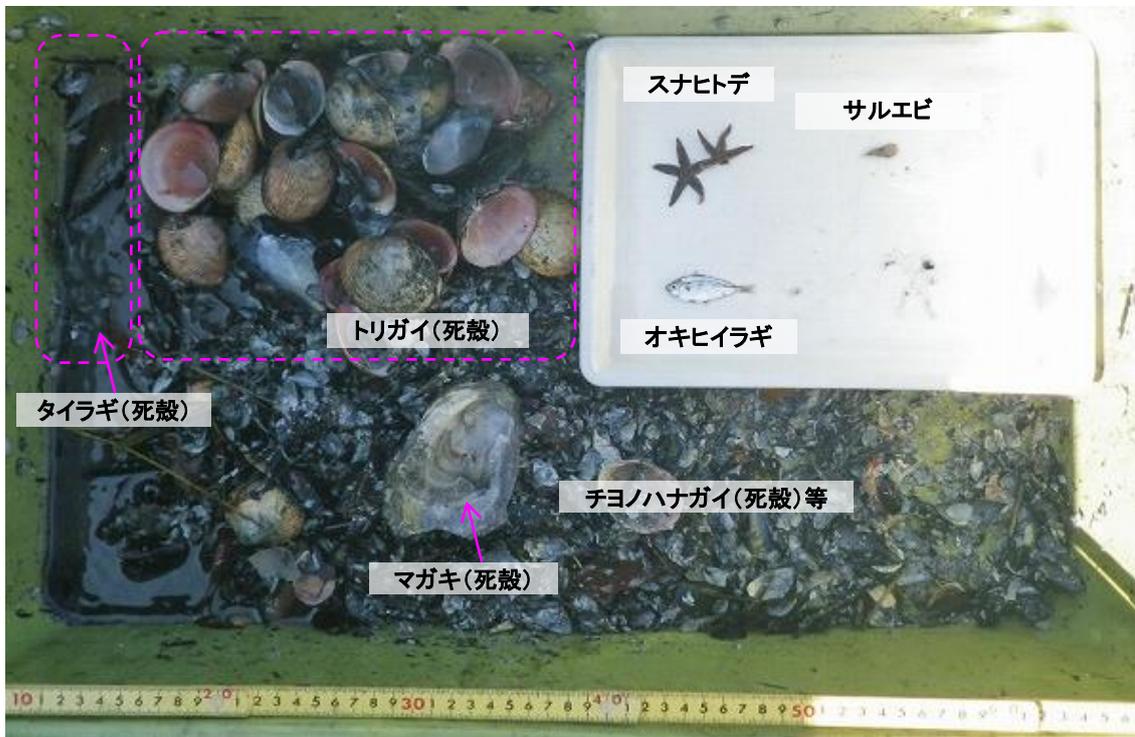
地点状況



西側には東京国際空港が見える。

貧酸素状態は解消していた。

採取試料



主な出現種



沿岸浅所に生息し、東京湾では湾奥の横浜市沖や外湾の岩礁域で採集例がある。東京湾では、漁獲量が少なくほとんど利用されないが、山口県、高知県等では干物等で流通している。



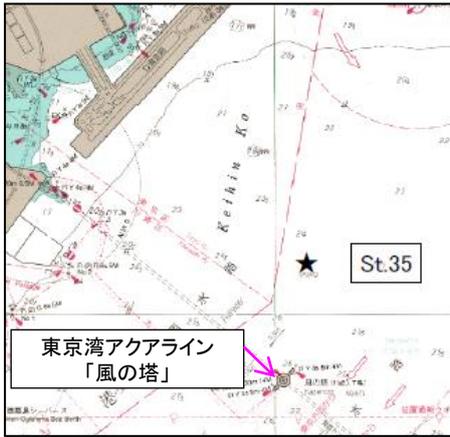
内湾の砂泥底に生息する大型のヒトデの仲間である。移動速度は速く、砂中の貝類等を捕食する。小型の個体が採集され、貧酸素水塊の解消後に新規加入したのと考えられる。



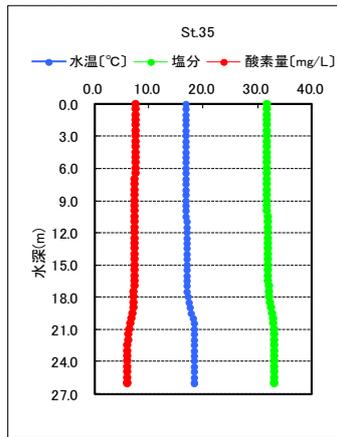
東京湾で最も普通にみられる小型のクルマエビの仲間である。内湾の砂底～砂泥底に生息する。7～8月が産卵盛期であり、9～10月が稚エビの加入時期と推定されている。

調査地点：St.35

調査地点位置



水質状況



地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

貧酸素状態は解消していた。

採取試料



主な出現種



東京湾全域から出現記録がある。体は横に伸びた菱形で、体盤幅は1.2m程になる。砂泥底に生息する。尾部の毒棘はアカエイに比べ小さい。つばくろは、ツバメ(燕)の意味である。



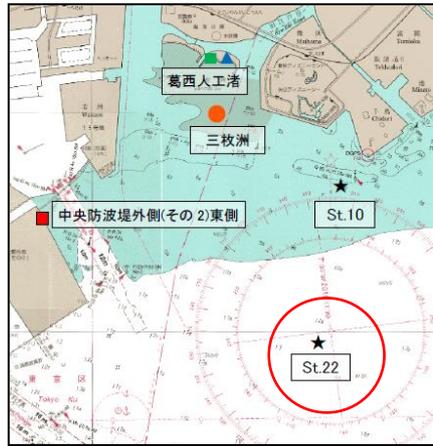
東京湾全域から出現記録があり、特に湾奥に多い。砂泥底に生息し、甲殻類等を食べる。繁殖期は7~10月であり、貧酸素水塊の解消後に新規加入した幼魚も採集された。底曳網で大量に漁獲され、練り製品の材料等に利用されている。



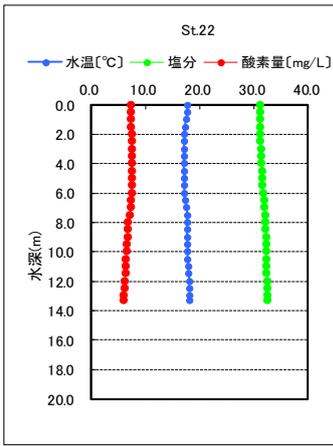
東京湾では、イシモチとよばれ、底曳網などで漁獲されている。泥底~砂泥底に生息し、幼稚魚は湾奥の干潟域や砂浜海岸などの浅所で生活する。

調査地点：St.22

調査地点位置



水質状況



地点状況



北西側には東京ゲートブリッジ、東京スカイツリーが見える。

貧酸素状態は解消していた。

採取試料



主な出現種（死殻含む）



ホンビノスガイ



ミドリイガイ



トリガイ(死殻)

貧酸素状態などの環境悪化に耐性がある。外来種であるが、東京湾ではおなじみの貝となっている。殻の色は本来白っぽい、底泥中の硫化物の影響で黒っぽくなっている。

外来種。殻の形はムラサキイガイに似るが、殻の色は鮮やかな緑色である。ムラサキイガイよりも深い場所に着生する。高水温の海域を好み、東京湾では温排水口周辺等では越冬が可能である。

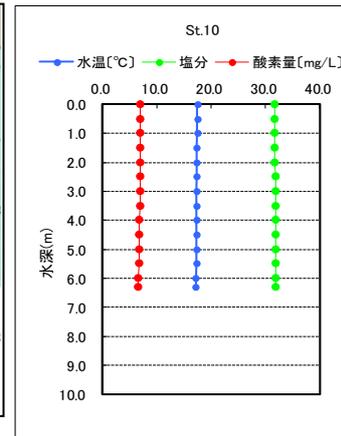
内湾の泥底に生息する。湾奥部では夏季の貧酸素水塊の発生によりほとんどが死亡する。貧酸素水塊解消後に出現した稚貝は、翌年春に 60 mm に成長し漁獲される。千葉県では、重要な漁業対象種となっている。

調査地点：St.10

調査地点位置



水質状況



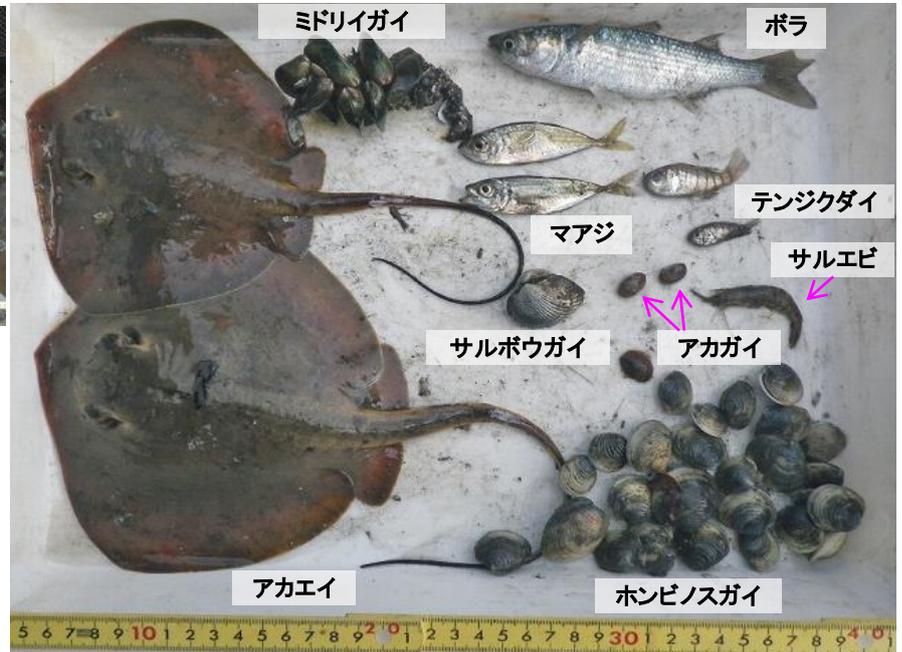
地点状況



北側には、方位標識、東京ディズニーリゾートが見える。

貧酸素状態は解消していた。

採取試料



主な出現種



東京湾で最も普通にみられるエイの仲間である。胸鰭(えいひれ)で海底をあおいで掘り起こして、隠れている甲殻類などを食べる。尾部の毒棘は大変危険。

稚魚は干潟域等の浅所、未成魚や成魚は沿岸から河川下流域にかけて生息する。主に底質表面の付着藻類や有機懸濁物を食べる。秋～冬が旬で、刺身や塩焼き等で賞味される。『からすみ』は本種の卵巣を塩漬けにして乾燥させたものである。

湾奥から外湾にかけての沿岸からやや沖の表層付近で普通にみられる。産卵期は春～初夏である。重要な食用魚であり、底曳き網や巻き網等で漁獲されるほか、釣りの対象としても人気がある。